

今後の戦略検討会で議論すべき事項、スケジュール（案）について （2024 年度末まで）

1. 減容・再生利用技術の開発

実施内容

- （1）これまでの技術実証の進捗整理、とりまとめ（飛灰洗浄技術・安定化技術実証、技術実証フィールドでの小規模技術実証の進行管理等も含む）
- （2）今後追加的に実施すべき技術実証項目の抽出、実施
- （3）技術の組み合わせ（複数パターン）の検討
- （4）処理コストの整理・検討
- （5）減容技術を踏まえた、最終処分場の構造の検討（3. に反映）

進め方

技術実証を引き続き実施するとともに、上記事項については、本戦略検討会の下に、減容・再生利用技術ワーキンググループ（仮称、以下「技術 WG」とする）を 2022 年度に設置して、検討、とりまとめを行う。

2. 再生利用の推進

実施内容

- （1）飯舘村長泥地区での実証事業（農地の盛土造成）の継続実施
- （2）道路盛土の実証事業の実施
※主な確認事項：施工方法・手順など
- （3）福島県外での再生利用実証事業の検討
- （4）実証事業を踏まえた再生利用の手引きの充実化、省令基準の策定（※）
※放射線審議会への諮問等も実施することを想定

進め方

上記事項について、農地や道路の専門家からの知見を得つつ、減容・再生利用方策検討ワーキンググループ（以下「再生利用 WG」とする）において議論を行う。また、省令基準の策定等に当たっては、必要に応じて、再生利用に係る放射線影響に関する安全性評価検討ワーキンググループ（以下「放射線安全 WG」とする）も開催。

3. 最終処分の方向性の検討

実施内容

- (1) 除去土壌等の発生量、放射能濃度の再整理
- (2) 再生利用見込み量の検討
- (3) 最終処分場の構造、必要面積の検討
- (4) 最終処分に関する放射線安全性評価
- (5) トータルコストの検討

進め方

1. や2. の検討内容を踏まえつつ整理を進め、本戦略検討会で随時報告し、御意見をいただく。(4)については、放射線安全WGにおいて議論を行う。

4. 全国民的な理解の醸成等

実施内容

- (1) 飯舘村長泥地区での実証事業を中心とした理解醸成の推進（広報・教育拠点化等）、現地見学会（飯舘村長泥地区、中間貯蔵施設）等の継続実施
- (2) 全国各地での対話フォーラムの継続実施（各地域の方々に参加いただきやすい工夫を検討）
- (3) 次世代への理解醸成活動の継続実施（大学等での講義、学生向け現地見学、ワークショップ等）
- (4) SNS等も活用した理解醸成の取組の強化
- (5) 除去土壌を用いた鉢植え等の設置

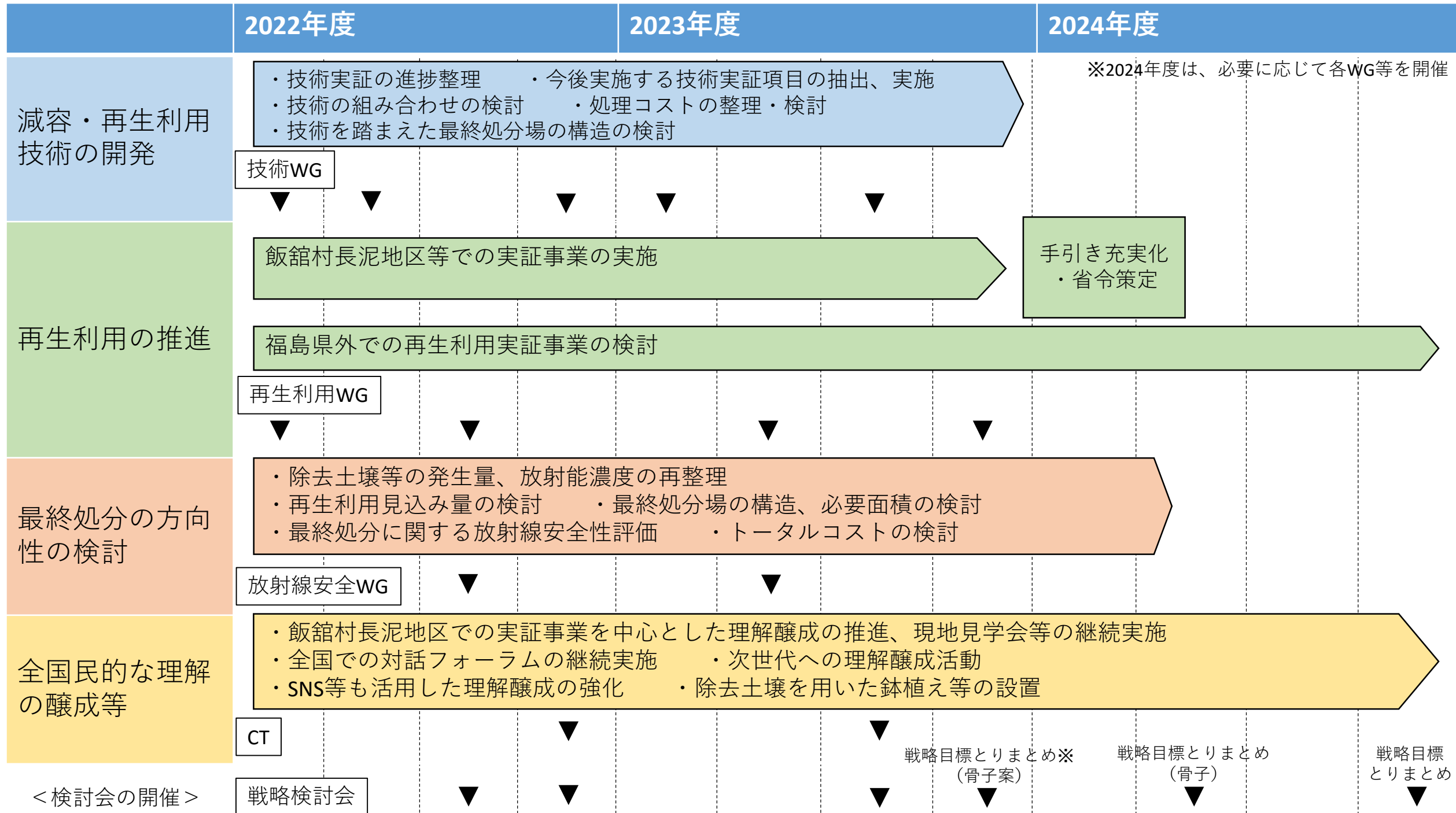
進め方

各取組を進めつつ、随時、コミュニケーション推進チーム（以下「CT」とする）において議論を行う。

5. その他

以上について、戦略検討会の御助言を得つつ、「中間貯蔵除去土壌等の減容・再生利用技術開発戦略」の戦略目標年度（2024年度）に向けて検討を進め、とりまとめを行う。また、2025年度以降の取組の進め方についても議論する。

今後の戦略検討会で議論すべき事項、スケジュール（案）について（別紙）



※①2024年度までの取組のとりまとめ
②2025年度以降の取組の進め方